

集団を鍛える学力づくり・授業づくり

今こそ「見える学力・見えない学力」

組織局長 岡本 美穂

2学期に「伝記」の学習を行いました。

そこから学級に「伝記ブーム」がやってきました。毎日誰かが係りからの連絡で

「今日伝記をく冊持ってきました。読みたい人は言ってください。」

と代わる代わる伝え、懇談の期間中には

「みんな図書館に行きませんか？」

と言って男女混ざって15人ほど校門前で待ち合わせをして図書館に伝記を借りに行っていたそうです。集団を動かすには、「ブーム」を生み出す策略を担任である私たちがもっているかが問われます。

ただし、集団というのは、その場の雰囲気ですべてが変わるものだと考えています。ちょうど私が小学生の時に奈良公園の遠足で「赤信号、みんなでわたれば怖くない」などと言って、遊んでいたことを思い出しました。斉藤孝さんの著書「人はチームで磨かれる」職場を元気にする72の質問

」でも、

「リーダーの立場にある人なら、基本として空気を読み、空気を変える技術を身につける必要がある。だから、自分の資質の中からリーダー的なものを引き出していく必要がある。その一つが『空気の技術』なのである。リーダーに必要なのは、空気を読んだ上で、それを好転させる工夫だ。」

と述べられていました。まさにその通りで3学期の自分の学級の雰囲気は今どのようなになっているのかを敏感に感じ取り、そこから授業、学力づくりに取り組むことが必要になってくるのでしょうか。

しかし、それと同時に、矛盾するようですが、雰囲気ばかりに流されるのではなく、来年度の姿を見越して子どもと向き合う時期であるとも考えています。4月の最初、自分の学級の子どもたちを受け持ったどんなことを感じましたか。

「よく、鍛えられた子どもたちだな。」

または、

「去年度この子たちは何を学んできたんだ？」

この考えの土台となるのは、基礎計算、漢字が取得できている、という見える学力の部分と、話を集中して聞くことができる、宿題をきっちり提出することができる、などの見えない学力です。

見える学力と見えない学力1個ずつでかまいません。残り3か月を使って子どもたちに身につけてあげられるように策略を練りましょう。

見える学力を 集団で

「リズム漢字」

リズム漢字は一行7文字で構成されています。子どもたちにとっては、意味があるような無いような不思議な文章がおもしろいだけではなく、お経のようなリズムが心地良いようで、音読するとほとんどの子どもたちがはまります。毎日5分ほど行ううちに、漢字を表示しなくてもクラス全員で唱えているという不思議な光景が繰り返されるようになってきます。まさにブーム

到来です。ここから本番です。学級としてのつてきたところで「書き」にうつります。ポイントは当学年から始めて、下がっていくことです。例えば、5年生担任ならば、5→4→3→2→1年と取り組みます。

① 業桜一枝美容液

② 観測故蹟流星群

③ 過去現在支出減る

④ 個人成績修証

⑤ 絶賛限定低価格

⑥ 新築快適寄宿舎

⑦ 混雑評判銅版画

⑧ 幹部態度非常識

⑨ 導線災害暴風雨

⑩ 保険経営責任者

⑪ 総理舌先理由述べ

学習を楽しめるようになっただけでなく、自分の力に自信をもてるようになります。

「テストづくり」

どの教科でもかまいません。一人1枚ずつ白紙を用意して行います。例えば面積だったら自分が先生になったつもりで1枚テストを仕上げます。その後できた子ども同士交換してテストを行います。実際に答

えを書きこむよりは印刷してあげる方が本物のテストのようで楽しいかもしれません。が、手間を考えると、ノートに答えを書き、テストを出した子どもが丸付けをする、とした方がよいでしょう。この際、

「覚えたつもりでも覚えていない。わかったつもりでもわかっていない、ということとは誰にでもあることです。だからこそ自分だけがかしこくなることを求めるのではなく、みんなで賢くなることを追求しよう。」

という声かけは大切です。これは集団を利用して「外化(がい化)」をしています。「外化」とは認知心理学の言葉で、頭の中にあることを書いたり話したりして、「外に出して考えたことを形にする」ということです。

見えない学力を集団で

子どもはみんなで、仲間の成長を喜ぶことができます。また、子どもは認めてあげるとやる気を出すことができます。だからこそ、子どもが書いた振り返りや言葉を通して紹介することで、良い雰囲気や学級をしていくのです。

「今日、私は倒立をやっていて、Oさんがで

きなかったので、みんなで教えていたら、できるようになってよかったです。そしてその後T君もできるようになりました。今日は二人も倒立ができていたのでよかったです。」

「勉強は四月に比べたら、急にハードになっています。新しい漢字や、小数の計算、社会の米作り、理科がとても難しいです。けど、そういうところが楽しいです。ほめられると伸びていくような気がします。」

「漢字でも先生にほめられたことや友達に『すごいやん』『がんばれ〜』とか言われてうれしかったです。」

「私は最近自信がついて、『わかる問題、読んでくれる人!』はほとんど手を挙げるようになっていきます。気づきましたか?それからは、すごく授業が楽しいです。」

「いつか忘れたけど、席替えをした時、M君が班長になると言っているのがすごいと思って、ぼくの子想ではM君は心強いとわかってすごいなあ〜と思いました。」

これが学級の文化となり、価値となりやる気あふれる雰囲気となるのです。